

第3回新宿区文化芸術振興会議（第4期）議事要旨

■開催日時 平成29年7月10日 午後2時から午後4時まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎6階 第3委員会室

■出席者

委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 松井千輝 松島貴美子 的場美規子

中島隆太 大和滋 沼井利枝（欠席 大野順二 舟橋香樹）

*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く)

事務局 村上文化観光産業部長 小泉文化観光課長 原文化観光係長 唯野主任

■議事の進行

1 新規委員の紹介

事務局が新規委員の紹介を行った後、沼井委員から自己紹介があった。

*任期：平成30年9月8日まで（他の委員の残存任期と同様）

2 開会

(1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。

(2) 本日の進行について、次第に沿って進行すること及び審議を効率的に進めるため、次第の議事(1)、(2)の説明後、(3)のアを説明及び(4)の意見交換を行い、その後、(3)のイを説明及び(4)の意見交換することを確認した。

3 議事（要旨）

(1) 前回会議の内容について

資料1-1及び資料1-2に基づき、前回会議（平成29年3月31日開催）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。

(2) 報告事項

文化芸術振興の重点項目に関する主な取り組みについて

資料2-1及び資料2-2に基づき、事務局が説明を行った。

(3) 調査審議事項

ア「新宿フィールドミュージアム・アクション2020」

資料3-1及び資料3-2に基づき、垣内専門部会長が説明を行い、資料の詳細は事務局が説明を行った。

イ「新宿文化センターの運営方針」

資料4-1及び資料4-2に基づき、垣内専門部会長が説明を行い、資料の詳細は事務局が説明を行った。

(4) 意見交換

【以降、意見交換】

- 東京2020参画プログラムへの登録について、どのレベルを文化オリンピックとするのか。
- ボランティアについては、別イベントで高校生プレスセンターというものを設置して、高校生が取材して記事を書くという取り組みがあった。若者たちに文化の認知を広げていくという意味で、高校生、中学生を巻き込んでいくとおもしろいと思う。
- ボランティア活動は、いろいろな世代でかかわって、主体的に参加するということができるだけ早いうちから養っていければよい。
- 数値目標はこういう目標でいくとして、これをもう少し各行動・目標別にブレークダウンする上で、ターゲティングだとかマーケティングを縦横軸で考えていかないと、総花的に広がってしまうと思う。行動目標に対して中身、目標があってそれをどう達成していくかということが非常に大事になると思う。
- 期間を拡大するにあたり、費用対効果について、もう少しきちんと考えたほうがいいのではないか。
- 認知度を高めるのに、電子媒体を使っていく一方で、インスタグラムやツイッターなどのSNSというものでの拡散を行政がやるのはコスト的にも無理で無駄とあるが、どのように認知をさせていくのか。またコストはかかるものなのか。
- ガイドブックはほとんど手元には届いていない状況なので、ホームページからアクセスをやすくするなど、いろいろな媒体での拡散が必要である。
- ボランティアに関しては、学生と協働して、チラシをつくってもらい、その学生にも来てもらって、自分たちがつくった情報を得て、どういう人たちが観劇して、どんな状況なのかを見てもらおうというようなことをしていけば、文化をいろいろな人たちがいろいろな形で体験する機会になると思う。
- 情報発信は、新しいSNS、ホームページを使うということは大変重要であるが、同時に紙媒体もやはり大事。
- 多様性ということを大事にして、紙媒体と電子媒体の両方を活用というものは、必要なことである。インスタグラムが浸透してきているのでインスタ映えするようなものを使えるようにすると、結果的に広がっていくのではないかと。
- 30代、40代でおひとりの方も多いので、おひとり様の参加イベントというものがあったらいい。
- 神社仏閣に関しては、最近、ご朱印ガールというものがはやっているのでも、ご朱印を特別につくるということも呼び込みの手段になる。
- スマホとかQRコードで申し込みをするのは気楽だが、申し込みをした方は、無料でもちゃんと来るのか懸念がある。
- QRコードやスマホを使って申し込めるものと、はがき等を使って申し込めるものと、双方向で行ったほうがいい。
- ボランティア活動をすることによって、いろいろなことも学べるし、就職活動のためにもなるという切り口で行くと、学生も集まるし、結果的に、それで文化が浸透していけばとてもいいのではないかと。
- ボランティア活動で、高校生が参加すると、家族や友達との会話の中で情報が広まっ

て認知度が向上する。

- これは要らないとか縮小する検討も大事。
- 文化観光課と新宿未来創造財団は事業がいろいろ重なっているが、重複して行うのは無駄なことなので、それぞれの役割をしっかりと担っていくように、事業については切り分けして行うべき。
- 行動目標は、主催者側ができることと、相手方がある事項の、若干特徴の違う2つの行動目標があわさっている。
- 東京2020のオリンピックのロゴマークをもらうのは非常に厳しい条件があるが、beyond2020は申請すれば割と自由にとれるので、この広報の仕組みとうまく連動して、たくさんの方々にこのフィールドミュージアムを知っていただいて、体験していただくということが重要ではないかと思う。
- 満足度はデータをとるのが大変なので、それぞれの事業や施策の中で、何らかの形でアンケートや利用者調査で参加者の意見をフィードバックするような仕組みを入れていただけたらいいと思う。
- 満足度は年度ごとにフィールドミュージアムのテーマを決めて、テーマに沿ったプログラムを中心に開催すると、そのテーマによる満足度が計れる。
- 個々のイベントについては、主催者はアンケートをとって、満足度とか価格を検討しているが、フィールドミュージアム全体の満足度をとるとするのはなかなか難しい。
- フィールドミュージアム参加団体に対して、文化オリンピック、beyond2020をとるように呼びかける。
- 24時間やるような話もあったが、いくつかポイント的に夜間に実施するものがあるのはいいとは思いますが、日常的にあると、やはりそこで生活をする、それを支える人たちの役目も出てくるので、そこら辺に懸念がある。
- 公共施設を24時間開ける場合、税金がかかるので、それと効果を検討する必要がある。またスタッフがオーバーワークになってしまっては困る。
- 24時間、夜遅くまで何かやったときに、家に帰る公共交通システムの課題もある。
- 夜間にやって、普段来られない方を呼ぶのはよいが、飛び石的にこの日は夜間やって、この日はやらないとなると、かえって混乱してしまうので、連続でやるほうが来やすいと思う。
- 目標管理についてはしっかりと指標を立てられたが、アウトプット、つまり目的に対する数値が足りないのではないか。
- 新宿文化センターについて、1つの方向性を決めたいほうがいいと思う。まずは大きな方針を決めて、その方針のもとに、使いたい人が集まってくるような環境をつくっていくことによって、区民にもわかりやすくなるし、その認知度も自然と上がるような方向性に持っていければよい。
- ホームページは、使う側や見る側にもう少しわかりやすくてもいいのではないか。
- 方向性が明確になってきたので、早目にこういう方向性に沿った指定管理の方向に進めばいいと思う。
- 演奏する場、聞く場としては、すごくよいところだと感じる。
- パイプオルガンに関しては、難解な曲が多く、大衆向けではないので、人を呼ぶよう

なコンサートを開くのは少し難しいと感じる。また、文化センターを20代、30代に目を向けさせたいという方針と、パイプオルガンを維持したいという方針とはかみ合っていないように感じる。パイプオルガンはオペラシティに任せて、文化センターは、パブリックビューイングができるようなモニターやスクリーンなどを置くような施設として使っていったほうがいいのか。

- 20代、30代の年齢層への認知度のアップということで、そこに行く目的が何かないと、足を運ばないと思う。フィールドミュージアムなどで、アウトリーチ的にやらないと、こういう人たちは行かない。
- パイプオルガンはだいぶ税金を使っているところで、いつまでに必要性に対しての決定を下すのかというのが明確になるとよい。
- 今後も、音楽とかバレエに特化した貸館を中心としての運営していくのか。専門性の高い人が入ることによって、主催事業に対しても専門分野に特化していくということもできると思う。
- 昭和54年開館ということなので、利用する方も、やはり安全面がとても気になる。
- 新しいものはお金をかければいろいろつくれるが、逆に歴史とか、古いものというものは、お金ではつukれないものなので、今まで培ってきたものや建物を、逆に古いもの、歴史あるものとして打ち出していくというほうがいいのではないか。
- 新宿文化センターの存在そのものをもう少し宣伝するポスターがあったら、こういうセンターがあるということを、いろいろな人にもわかってもらえるのではないか。イベントの広告ばかりではなくて、この館そのものを宣伝することも必要。
- 新宿文化センターの大きなメリットというのは、非常にロケーションがいいことである。これだけロケーションがいいところは、貸し出すことが十分できるので、多様なものに貸し出せば、わざわざ自主的に制作をする必要もなく、多様なものを区民の方に提供できるであろうし、そういう潜在的能力が非常に強い。
- 他のホールでかなりの部分を貸し出して稼いでいるというような事例もあるので、メンテナンスの部分ぐらいは十分に稼げる施設ではないかと思う。
- ホールのマネジメントについて、専門家が何かアドバイスをしたら、その結果にも責任を持っていただくようにしたほうがよい。
- 音楽関係、バレエも含めて、集中的に特化していくということは1つの方針としてよいと思う。
- ものすごく国際的な、グローバルスタンダードに合うような専門的なホールというものにはなかなか十分に太刀打ちできるわけではない。ただ、このホールの音響自体は、まだ十分に戦える競争力を持っているので、ここをうまく使いながら、ここのホールでしかできないようなことをやっていったほうがよい。地域の宝としては非常にいいものがあるので、この地域を中心に音楽とかバレエをお見せする、また区民の方がそれらをプラクティスするというように特化していく。
- アマチュア活動だけで館が毎日全部埋まるとは到底思えないし、全国のパフォーマーの7割が東京にいるというぐらい集積しているので、プロの方ももちろん使っただき、区民の方々あるいは学生の方々の発表会やアウトリーチも盛り込んでいって、館が空いていることがないように使い切る。

- プロの団体は早目に押さえなければならず、今のようなシステムだと難しいので、一定程度は専門的なプロの団体に使っていただくというやり方に変えていく必要があると思う。
- 運営は次期指定管理の方々がどういうふうにするのかプロポーザルをしてくるだろうと思うので、こちらから提案するのは大きな目標で、それをどういうふうにするかは、指定管理をする方が考えること。
- 運営方針に沿ったものには、早目に優先的に貸し出せるという環境をつくっていくと、プロが先に押さえる可能性があるし、アマチュアでも、その専門分野であれば先に貸すという構造になっていけば人が集まってくると思う。
- 自主事業もその系統のものをやらないと、方針やイメージが伝わらないので、この館はこういうものをやるところだということがわかるような自主事業編成方針を持ったほうがいい。
- 東新宿駅のホールの広告はパイプオルガンの宣伝をしていた。これはやはり運営方針がないし、何をアピールするかという明確なものがない。
- 安全面、メンテナンスもきちんとやっていかなければならない。
- あと10年ぐらい建物をもたせるというようなお話ということは、10年経ったら建て替えるか壊すかというような方針なのか。
- パイプオルガンは直すのに随分お金がかかるので、よく考えた上で方針を決めていくべきである。
- 松山バレエ団とぜひ提携してほしい。
- 今日の意見を専門部会で協議して、次回の会議で専門部会から最終案を示し、実現に向けて具体的にどう取り組んでいくか議論をする。

3 事務連絡等

東京2020大会区民協議会への的場委員の参加について確認した。

第4回目の会議は10月～11月頃の開催予定とし、日程や会場等については、別途事務局から連絡することとした。

4 閉会

会長の挨拶をもって、午後4時に閉会した。